

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オリーブ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月28日		～ 令和8年3月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和8年2月28日		～ 令和8年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・未就学期から就学期への療育のステップアップ段階からの支援が可能であること。	・圏域の児童発達支援センターとの連携を密に行い、未就学期から就学期への支援の移行がスムーズに進むように協力体制をしっかりと構築している。また、個別療育用の環境設定が臨機応変に出来るように支援グッズの製作などにも取り組んでいる。	・就学期へ移行後も、より良い支援が提供出来るように、児童発達支援センターの療育コーディネーターが当事業所へ訪問指導に来ていただく機会を定期的に確保する。
2	・療育経験豊富な保育士と児童指導員(教員経験者)による個別療育が提供できること。	・法人独自の研修や外部研修への積極的な参加により、職員個々の療育支援の技術向上を図っている。また、圏域の児童発達支援センターに所属する療育コーディネーターによる、療育支援の知識の向上や技術の研鑽のための指導を頂いている。	・就学期へ移行後も、より良い支援が提供出来るように、児童発達支援センターの療育コーディネーターが当事業所へ訪問指導に来ていただく機会を定期的に確保する。
3	・りんご並木の歩行者優先道路に面した立地条件で、地域イベントや知久町1丁目商栄会、橋南児童クラブとの共同事業などに通年で参加でき、地域交流の機会がしっかりと確保できること。	・地域交流では、りんご並木周辺で行われる文化的イベントや知久町1丁目商栄会との交流事業に参加し、インクルージョンに向けた取り組みとしては、橋南児童クラブとの共同事業(クリスマス会など)を企画実施している。	・インクルーシブに向けた児童クラブとの交流事業は、今後も継続実施出来るように、双方の児童が楽しく交流できる行事の企画が必要であり、児童も企画に参画してもらいながら取り組みを重ねていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所は建物2階に位置しており、構造的な不便さと安全性の確保が課題であること。	・賃貸物件であり、事業所主導による改修が困難である。	・職員による児童の安全確保に関する研修や緊急時を想定した対応訓練などを計画的に実施していくことと、児童も参加する形での避難訓練等の計画的な実施を継続していく。
2	・児童が静養したりクールダウンする為の個室が複数確保できないこと。	・賃貸物件であり、事業所主導による室内改修が困難である。	・限られた室内条件の中で、支援の構造化をどう図っていくかのアイデアを出し合いながら実践していく。例えば簡易的なパーティションを段ボールで複数作り、状況に応じて設置するなどの柔軟な対応が出来るようになると良い。
3			